

2013年度一般会計決算に反対 行き過ぎた行政改革と 大型土木事業

◆福祉の分野、保育や学童保育などの現場に指定管理制度を導入してきました。また、正職員と臨時職員の格差、職種による格差など雇用の面にも問題があります。

◆まちづくりの視点から市民生活に直結する施策より、大型の土木事業を進めています。市民が望む東武野田線の複線化は見えてきませんが、鉄道高架事業は進められています。また、東京直結鉄道は市民生活に寄与するとは思えず、莫大な建設費や維持管理、運営費が大きいのかかります。

◆後手後手の対応が税金の無駄使いにつながります。開発協会の野田パブリックゴルフ場の経営不振は以前からの問題で、その対策は遅すぎました。古布内保育所の耐震上の問題が発覚した時には既に指定管理制度導入後でした。建て替えを機会に民設民営とするため契約期間中だった指定管理者に補償金を支払いました。慎重に取り組むべき事業と早期の対策を要する事業の判断が適切ではありません。◆教育面では、児童生徒、保護

者、教職員の意見を聞かず翌年度からの土曜授業開始を決定したため禍根を残します。

決算委員会傍聴記

会場となる委員会室は満杯。まず、女性職員の少なさに驚きました。傍聴者は2名でしたが、決算書は1冊しか用意されていません。椅子だけのため、分厚い決算書を傍聴者2名の膝の上に乗せて聞いていました。また、担当課の職員が入り替わるたびに立ち上がり、空いた席に座り直しを余儀なくされました。市民の傍聴を前提としているのですから、もう少し広い会場でやれないものでしょうか？さて、委員会では、説明を求めて質問するのは、ほとんどが市民ネットの小室さんでした。事前

の読み込みも大変だったと思います。

委員長がページを読み上げるや否や「次！次！」と先を促すだけの委員にも驚き。一般質問と違い台本なしの質疑ですから、素顔の議会と行政が見えてきます。

議員が地元の利益のみを主張すれば、私たちの税金は全体のバランスや長期的な見通しに立って使いたい方ができません。既得権益を持たない市民や少数派にも目を向けた公平な使い方をしてほしいと改めて思いました。(K・N)

柏廃材被害は まだまだ続いている！

住居近くに稼働停止を求めている産廃処理施設(柏廃材)があります。

【子宮頸がんワクチン】 被害者連絡会・千葉県支部設立



市民ネットワクチンが反対して来た子宮頸がんワクチンの現状を知って！

千葉県支部の設立は、神奈川、埼玉県などに続き7番目となります。千葉県支部は被害者家族に加えて一般の市民や議員などが賛助会員として登録しました。設立総会后、県庁において江戸川大学の隈本邦彦さんによる勉強会が開かれ、元NHK記者として薬害を追いかけた経験を活かし、専門的な内容をわかりやすく話されました。市民ネットワクチンの県議が、民主党の国

公害等調整委員会に委ねた状態ですが、今も風向きや強さにより特に夜遅くや土日にかけて悪臭を感じます。最近では、苦情受付ホットライン通報の件数が減っているという報告を聞きましたが、当初は臭いを感じる度にかけていた電話も、長期間に渡り大変疲れてきました。

県の排ガス測定調査日は予告されているので、「問題なし」の報告にも不安は残ります。臭わない化学物質も当然あり、長期の影響が心配です。市は、市民の健康を守る砦となつてほしいものです。(三ツ堀 高村千菊)

悪臭や異変を感じたら
04-7123-1753
(24時間対応)

会議員や千葉県議会の自民党議員にも声をかけ超党派の議員が参加しました。学習会の後、被害者のご家族がこれまでの経緯や現在も続く症状(全身を襲う激しい痛み、手足のしびれや麻痺、吐き気、意識障害、母親さえ認識できない記憶障害等)の報告、記者会見では「症状は進行しています。早急な治療法が確立されるよう力を貸してほしい」と訴えました。